

論壇

新たな仕事への対応力

今の子供たちが大人になる頃には、今の仕事の半分ぐらいがなくなってしまう。そうしたことを考えないで今のままの教育を続けると、子供たちは将来困ったことになる。

政府のある会議でこうした意見を力説している専門家がいた。たしかに、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）などの技術の進化のスピードは速く、人間の仕事を奪っていく。近い将来に半分以上の仕事がAIやロボットに奪われるという予想は、オックスフォード大学の研究チーム

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

によって何年か前に発表されたもので、それに世界の多くの専門家が反応しているのだ。

技術進歩が私たちの仕事を奪うという意味では、18世紀半ばから

19世紀にかけての産業革命の時代が参考になる。蒸気機関などが発明されて、これまで人間が行っていた力仕事を機械がやってくれる

だけの労働者では、機械に太刀打ちできなくなりました。

それでも産業革命は多くの労働者にとっては良いことだったはず

だ。労働者は苦しい肉体労働から解放され、今度は機械を操作する仕事を担うことになる。産業革命によって仕事はなくなるのではなく、産業革命以前に主流であった

情報技術進展と教育改革

ようになった。仕事を奪われた労働者たちは、怒って機械を壊そうとしたという。

産業革命以前は、多くの人が肉体労働に従事していた。力持ちが

もっとも収入を稼ぐ仕事でもあった。産業革命はその力持ちの仕事を奪ってしまったのだ。力がある

仕事はなくなるだけで、多くの新しい仕事は生まれた。今、起きている情報技術の進展の影響についても同じことが

ある多くの仕事を人間から奪ってしまうだろう。しかし、それで私たちの仕事はなくなるわけ

はない。ロボットやICT（情報通信技術）を駆使した、新たな仕事が多く生まれるはずだ。機械にはできないような人間的な活動に、より光が当たることもあるだろう。

冒頭に述べた警鐘はまさにこの点にある。今の子供たちに、産業

革命の時の肉体労働者と同じような経験をさせてはいけない。コンピュータがやれるようなことを、教育で一生懸命教え込んでみても、10年後や20年後に、その能力はコンピュータにとって代わられるだけだ。

プログラミングが必須

もっと人間が本来持っている能力を鍛える教育を強化すべきだろう。知識よりは知力を大切に、

そして定型の問題を処理できる能力よりは答えのないような問題を考える地アタマを鍛えることだろう。知識を一方的に教えるのではなく、早くから討議やプレゼンテーションの中から学ぶ機会を持つことが必要だろう。

そして機械を使いこなすためには、より多くの子供がコンピュータの言語であるプログラミングを学ぶ機会を持つべきだろう。多くの国でプログラミング教育が広がっているようだが、残念ながら日本では動きが非常に遅いようだ。私たちの世代がこれからプログラミングを学ぶことは難しいが、今の子供たちにとってプログラミングの能力がないということは致命的なハンディとなる。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。